

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18500480  
 研究課題名（和文） 国境を超えたスポーツ参加・観戦・応援—身体文化の伝播・受容・普及の視点から  
 研究課題名（英文） Sport participants, spectators and supporters crossing national boundary: From perspectives of diffusion, acceptance and popularization of physical culture  
 研究代表者  
 平井 肇 (HIRAI HAJIME)  
 滋賀大学・教育学部・教授  
 研究者番号：70199032

## 研究成果の概要：

国境を越えてスポーツに参加する人々について、競技種目や競技レベル、参加の形態、場所などの多様なケースや角度から分析し、彼らの行動や経験が身体文化の伝播や授業、普及にどのような影響を及ぼすのかについて検討した。その結果、スポーツのグローバル化が人々のスポーツとのつきあい方をより多面的で多様なものに行っていること、スポーツのグローバル化にみられる現象や問題、課題は、他の文化や社会制度と共通する点が多々あることが明らかになった。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	660,000	4,160,000

研究分野：スポーツ社会学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：スポーツ 社会学 文化変容 地域研究 グローバル化

## 1. 研究開始当初の背景

近代スポーツの多くは、主として19世紀後半から20世紀前半にかけて、英国や米国を中心に制度化・組織化され、世界中に伝播していった。我が国では、スポーツ経験のある指導者や教師、実業家を中心となり、教育の現場や職場を中心にスポー

ツが普及していった。20世紀後半以降、一流競技者の海外での活躍が、新聞やラジオ、テレビなどのマスメディアを通して伝えられ、スポーツの普及に貢献した。以後、スポーツの大衆化が進み、スポーツを実践することだけでなく、スポーツを観ること、読むこと、語ることも、大衆

文化の一形態として人々の生活の一部となっている。

我が国では、スポーツの伝播・受容・普及のパターンは、従来の「トップダウン型」から、近年は「ボトムアップ型」へと代わりつつある。その原因としては、これまでになかった形で、人々がスポーツに触れ、それを試し、取り入れてゆく流れが生まれていることが挙げられる。21世紀に入りグローバル化が進むか、これまで以上にトップ・アスリートが国境を越え、情報が国境を越え、資本が国境を越え、スポーツのグローバル化は促進されている。さらに近年、市民スポーツ愛好家が海外のスポーツ・イベントに参加し、スポーツの観戦や応援のために気楽に国境を越える人たちが増えている。

## 2. 研究の目的

本研究では、国境を越えたスポーツ参加や観戦、応援に関わって、以下のことを調査研究課題として取り上げる。

- (1) 世界の身体文化の伝播や受容、普及に及ぼしてきた歴史的経緯や今日的役割、それに伴ってもたらされた現象や問題点などについて、主としてオセアニアの事例を基に分析・検討し、
- (2) 我が国の身体文化に及ぼす影響、特に人々のスポーツ観と行動の変化について、ケーススタディを基に分析・検討し、
- (3) スポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進にスポーツが果たす可能性について、主として我が国とアジア諸国との関係

において分析・検討する。

## 3. 研究の方法

### ● 2006年度

各サブテーマに関わって、基礎的資料の収集・解読や関係者との面接・協議を通して仮説を構築するための期間と位置づける。

- (1) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が世界の身体文化の伝播・受容・普及に及ぼしてきた歴史的・今日的役割や、それによってもたらされた現象や問題点などについて、主としてヨーロッパの事例を下に分析・検討。関連する資料の解読と現地での調査、研究者との意見交換を通して、特に歴史的経緯について理解を深め、まとめの作業を行う。今日的現象や課題については、基本的情報を収集し、分析の枠組みの構築を図る。主たるテーマは、英連合王国及び英連邦諸国のフットボール（サッカー、ユニオンラグビー、リーグラグビー）とする。
- (2) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が我が国の身体文化に及ぼす影響、特に人々のスポーツ観と行動の変化について、ケーススタディを基に分析・検討。日本サッカー代表チームと大リーグ野球の観戦・応援、市民スポーツ愛好家の海外遠征に関する資料の解読と、ケーススタディの対象となる個人や団体等に関する基礎的情報の収集・分析を図る。
- (3) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた

国際交流や異文化理解の推進に果たす役割を、主として我が国とアジア諸国との関係において分析・検討。現地での調査、研究者との意見交換を通して、アジアのスポーツ事情について理解を深める。特に東南アジア各地で開かれる国際競技会を通して、地域スポーツ大会がスポーツの普及に果たす役割、ナショナルアイデンティティとの関連性、マスメディアの影響などについて資料を収集・分析する。

● 2007年度

前年度に得た基礎的知識や情報を基に、2. に関しては仮説の構築と実際の調査を行う。3. に関しては、データを収集する年度と位置づける。1. に関しては、調査のとりまとめを行う。国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が世界の身体文化の伝播・受容・普及に及ぼしてきた歴史的・今日的役割や、それによってもたらされた現象や問題点などについて、主としてヨーロッパの事例を下に分析・検討。前年度に引き続き、英連合王国及び英連邦のフットボール（サッカー、ユニオンラグビー、リーグラグビー）を中心に、国境を越えた人々の移動がもたらす社会・文化的意義や役割、問題点などについて調査を行う。特に本年度は、スポーツの変容に及ぼした影響について資料を収集し、分析と検討を行う。

(1) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が我が国の身体文化に

及ぼす影響、特に人々のスポーツ観と行動の変化について、ケーススタディを基に分析・検討。大リーグとサッカー日本代表の海外遠征の観戦や応援が、観戦者のスポーツ観の変化に及ぼした影響について、現地での参与観察及び聞き取り調査を中心に、情報収集、分析と検討を行う。市民スポーツ愛好家の海外遠征に関連する資料の解読とケーススタディの対象となる個人や団体等に関する基礎的情報の収集、分析と検討に取り組む。

(2) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進に果たす役割を、主として我が国とアジア諸国との関係において分析・検討。現地での観察、研究者との意見交換を通して、アジアのスポーツ事情について理解を深める。特にアジアのサッカーに関わって、人々の国境を越えた移動の実態を明らかにすると共に、韓国やタイのスポーツ観戦と応援の実態についても調査を行い、比較の対象とする。

● 2008年度

3. に関わって、前年度のフィールド調査や研究協力者との協議を基に、本調査を実施する。全体のまとめの作業であり、学会や専門雑誌などを通して研究成果の公表に努める。

(1) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が世界の身体文化の伝播・受容・普及に及ぼしてきた歴史的・今日的役割

や、それによってもたらされた現象や問題点などについて、主としてヨーロッパの事例を下に分析・検討。研究成果を、学会や専門雑誌等で公表する。

- (2) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援が我が国の身体文化に及ぼす影響、特に人々のスポーツ観と行動の変化について、ケーススタディを基に分析・検討。大リーグとサッカー日本代表の海外遠征の観戦や応援について、前年度に引き続き現地での参与観察及び聞き取り調査を中心に情報収集し、分析と検討を行う。市民スポーツ愛好家の海外遠征に関連しても、引き続き参与観察及び聞き取り調査を中心に情報収集、分析と検討に取り組む。
- (3) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進に果たす役割を、主として我が国とアジア諸国との関係において分析・検討。前年度に引き続き、現地での参与観察や聞き取り調査を中心に、タイや韓国を始めとするアジアの人々の国境を越えたスポーツ移動の実態の把握に努める。サッカー以外にも、アジア固有の身体文化の制度化にも注目し、スポーツを通じた国際交流や異文化理解の実態についても現状把握に努める。

#### 4. 研究成果

2006年度は、各サブテーマに関わって、基礎的資料の収集・解読や関係者とのインタビューやアンケート調査等を通して仮説の構築をするための期間と位置づけた。

- (1) スポーツのグローバル化とトップアスリート 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がローカルな身体文化に及ぼす影響、特に人々のスポーツ観と行動の変化について、台湾の大学野球の

ケースを取り上げて、現地での関係者へのインタビューとアンケート調査を実施した。その結果、トップアスリートの流出とメディアを通じた日本・アメリカの野球の露出度の増加に伴って、台湾野球界のトップアスリートである大学生の職業としての野球に対する意識も変化し、海外志向が高まっている反面、国家に対するアイデンティティ形成のシンボルとしての野球への強いこだわりも明らかになった。

- (2) スペクテイター・レベルでの国際交流 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進に果たす役割について、滋賀大学教育学部運動部連盟のタイ遠征に同行し、参加者の意識の変化についてのアンケート調査をもとに分析・検討した。その結果、自分たちと異なるスポーツ環境でプレイをして、自分たちが経験したことのないタイプの相手と交流することで、自分たちのスポーツ観や環境について客観的に考える機会が生まれたことが明らかになった。同時に、海外でのスポーツ経験が、自分たちの所属先（クラブや大学）に対するアイデンティティを再確認する機会となったことが明らかになった。
- (3) スペクテイター・スポーツのグローバル化とローカル化 ニューージーランドとオーストラリアのラグビーのケースを取り上げ、文献解読と研究者との情報交換を中心に、スペクタクル化の過程でスポーツ自体およびそのスポーツを取り巻く環境がどのように変化したかについて分析・検討を試みた。その結果、ニューージーランドやオーストラリア等のラグビー強豪国では、1990年

代中期を境にラグビーのコマーシャル化とプロ化が進み、階級スポーツからメディア・エンターテインメントへと急速に変容が進んだことが確認できた。

2007年度は、以下の各サブテーマに関わって、基礎的資料の収集・解読や関係者との面接・協議を通して仮説の構築・検証を行った。

- (1) 国境を越えたスポーツ・エリートの実態を調査することで、関係する国々におけるスポーツ文化やスポーツ政策に及ぼす影響について分析・検討した。具体的には、アラブ首長国連邦とカタールにおいて、それぞれの国のスポーツ政策とその社会・分的背景について調査を行った。その結果、これらの国において、政府やスポーツ・教育関係機関が、スポーツを国の振興発展、国際的イメージアップ等で重要な役割を果たすものと位置づけ、積極的に支援していることがわかった。特にエリート・スポーツ選手を積極的に受け入れるべく体制作りの実態が明らかになった。
- (2) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進に果たす役割を、主として我が国とアジア諸国との関係において分析・検討した。具体的には、大学の運動部の海外遠征が、参加する学生の異文化理解や国際交流に対する意識の変化に焦点をあてて調査を行った。韓国とマレーシアにおける大学スポーツの実態について施設の視察と関係者に面接を行い、2008年度に所属大学の運動部と

の交流の実現に向けて協議を行った。

- (3) 日本における国境を越えたスポーツ競技者や観戦者の移動の実態や意義、課題等について、国際フォーラム(2007年7月、Nordic Institute of Asian Studies、デンマーク)で報告し、学会誌(2008年2月、*International Sport Studies*)で発表した

2008年度は、以下の各サブテーマに関わって、資料の収集・解読や関係者との面接・協議を通して仮説の構築・検証を行った。

- (1) 国境を越えたスポーツ・エリートの実態を調査することで、関係する国々におけるスポーツ文化やスポーツ政策に及ぼす影響について分析・検討した。具体的には、2008年12月にマレーシアで開催されたASEAN University Gamesを視察し、参加した選手やコーチ、大会関係者にインタビューを行った。その結果、東南アジアにおけるエリート・スポーツの国境を越えた移動は頻繁に行われており、そのための組織化も比較的進んでいることがわかった。また、2009年1月に台湾を訪問し、現地のスポーツ研究者から、特に野球を中心に台湾におけるエリート・スポーツ選手の国境を越えた移動の現状と背景について情報を得た。
- (2) 国境を越えたスポーツ参加・観戦・応援がスポーツを通じた国際交流や異文化理解の推進に果たす役割を、主として我が国とアジア諸国との関係において分析・検討した。

具体的には、大学の運動部の海外遠征が、参加する学生の異文化理解や国際交流に対する意識の変化に焦点をあてて調査を行った。所属大学の運動部のマレーシア遠征（2008年8月）とタイ遠征（2008年12月）に同行し、現地での交流の実態を観察し、参加学生へのアンケート調査を行った。その結果、学生はスポーツの競技性のみならず、国際交流や異文化理解について貴重な体験をしたと感じており、海外遠征の意義を感じていることがわかった。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

- ① Hajime Hirai Sport and Sport Sociology in Asia and Oceania, *International Sport Studies* 26:2: 10-14, 2008

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① Hajime Hirai 'Reading Japan through Sports' Nordic Institute of Asian Studies, Asia House Foundation, University of Copenhagen, Denmark 2007年7月31日
- ② 林伯修 平井肇 「台湾大学野球とグローバル化」に関する調査研究『日本スポーツ社会学会第16回大会抄録集』日本スポーツ社会学会編 2007年 38-39

〔図書〕（計 1 件）

- ① R. Light, H. Hirai, H. Ebishima, Tradition, Identity Professionalism and Tensions in Japanese Rugby' G. Ryan (ed), *The Changing Face of Rugby: The Union Game and Professionalism since 1995*. 146-164. 2008, Newcastle, UK: Cambridge Scholars Press.

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

平井 肇 (HIRAI HAJIME)  
滋賀大学・教育学部・教授  
研究者番号：70199032

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし